

まばたきや奇声など連発する癖が治った小学生の事例

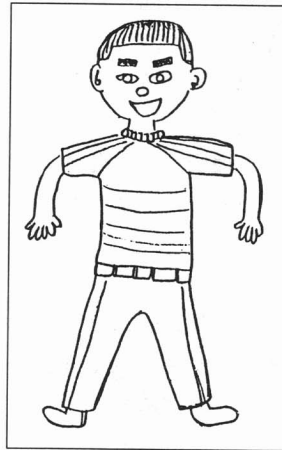
1. 主訴 チ ッ ク
2. 対象 小学校4年 男子
3. 問題の概要

- 入学当初より落ちつきがなく、授業中友達に話しかけたり席を離れたりした。
- 2年生ごろからまばたきをしばはじめ、次第に多くなった。その後、奇声に変わっていった。
- 3年生の初め、専門医より心因性のチック症と診断された。その後、専門医の指導により奇声は消失したが、バカ、ウンコ、チンポ、ボッキなどと言うようになった。
- このような症状は、家庭でも同様にあった。
- 4年生になり、肩すくみと共に奇声を連発するようになったので、当教育相談部に相談した。

4. 資料

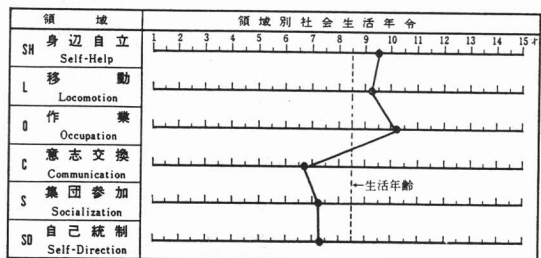
(1) 本人 (以下A男) に関する資料

- 身 体
出生時体重3,050gで正常分娩。母乳とミルクで育ち、発育良好。誕生前に歩く。
- 運動・行動
3歳時検診では「落ちつきがない」と指摘された。手先は器用であり、毛筆、絵画は何度も展覧会で入賞している。運動は水泳、サッカー、ソフトボールなど万能である。
- 知能・学業
知能偏差値 54 (4年生, 教研式)
学業成績は、低学年までは普通であったが、中学年になり私語や勝手な行動がめだつようになってからは、下降気味である。
- 性格・情緒 (人物画及び面接から)



繊細な感性を持つてはいるが、わがままで強情である。耐性に乏しく、神経質で落ちつきがない。自己顕示欲が強く、攻撃的であるが依存的でもある。

- 基本的生活習慣
幼稚園時の着がえは、いつも大の字に寝ころんでいながら祖母にしてもらっていた。
母親に言われた部屋の整理整頓などは、よくした。しかし学校での整理整頓はできなかった。
- 対人関係
友達に誘われると「イヤ」と言えず断りきれない。担任が、職員室、他の教室への用事をたのんでも恥ずかしがり、一人では行けない。
- S-M社会生活能力検査 (小4, 5月)



生活年齢より、身辺自立、移動、作業の能力は勝れているが、対人関係能力は著しく劣っている。

(2) 家族に関する資料

- 家族構成